

蹴



友



開成サッカー一部
OB会誌 No.32
2011年10月15日

会費の払い込み、よろしくお願いいたします。
会費は、社会人OBの方には、年度会費一口五〇〇〇円、四〇歳以上の諸氏には、なるべく二口以上お願いしています。なお、今年より従来の郵便振込用紙のほかに、郵貯銀行への直接の振込みが可能になりました。
※振込口座は5ページを参照のこと

平成二十三年

OB会 総会

日時 平成二十三年十一月二十三日（水曜日・祝日）

ゲーム 於・母校グラウンド／午後一時より

総会・懇親会 於・母校食堂

会費

■時刻はキック・オフ 集合は三〇分前
五時～七時
社会人 五千元※多くの参加を期待します
学生 貳千円 現役生 招待

▼ 同封の返信用葉書に出欠等を記入の上、十一月十五日（火）までに必ずご返送下さい。会員名簿の資料になります。ご協力下さい。

▼ ゲーム 年配者にも優しい企画を心がけます。小雨にても決行。

▼ 懇親会 現役生も参加予定。会費にその食費も折り込んで設定。



▼「草の花は、なでしこ。唐のはさらなり、大和のもいとめでたし。」と持ち上げたのは『枕草子』。

秋の七草の一つに数えられる可憐な花だが、第一に挙げられたのは、例の清少納言の、ひけらかしたがる漢文趣味の為すところ。▼『万葉集』にも歌われた草花の名が、このところ新聞雑誌の紙面、TVの画面にしきりに登場。ヤマトナデシコは此の場合、サムライブルーとのコラボレーションで花の賑わい。▼古来ナデシコはその花の姿の優しさから、「撫でし子」で、手中の玉のように大切に思う子や娘子の譬えに、言った言葉。一茶の句に「露の世や露のなでしこ小なでしこ」とあるのも、子供の哀れを詠んだものか。▼さて今日話題のナデシコは、誰が撫で育んだか知らないが、相当なハネツカエリだ。世界的水準のハネツカエリで、結構頼もしい。少しスレツカラシぐらいが本当は良いのかな。（順）

副会長中村の観戦記3本立て！

☆観戦記①中学

首都圏私立中学チャンピオンズカップ東京大会 2回戦で武蔵中に0・2！

8月24日から首都圏私立中学チャンピオンズカップ東京大会（旧私学大会、70校参加で一昨年は優勝し首都圏大会16チームに進出したが残念ながら予選リーグで敗退）が始まりました。開成は8月24日の1回戦で佼成学園中と対戦し8・0（4・0、4・0）で圧勝しましたが、翌25日の2回戦（勝てばベスト32）で武蔵中と対戦し0・2（0・1、0・1）で敗れました。

試合経過

私、中村は10時半に会社を離脱し会場である武蔵中学のグラウンドに向かいました。監督をやっていた時以来ですから35年以上振りに武蔵のグラウンドに足を踏み入れましたが、何とサッカー場も野球場も人工芝に



人工芝の上でハーフタイムでの池谷先生のコーチング

なっており非常に素晴らしい環境でビックリしました。

開成は前半開始早々にこぼれ球を拾ったMF10番からのスルーパスがFW11番に渡り、BKの裏に抜け出しフリーで打ったシュートがGKに弾かれてチャンス逃すとその後はゲームメーカーのMF10番にボールが集まらず攻撃がうまく組み立てられませんでした。武蔵は長身のFW12番のワントップ気味の布陣でしたがそのポストプレーがなかなか上手く、押し上げた中盤に前を向いてボールが渡るようになると15・20分の間に立て続けにCKを奪われるピンチが続きました。何とか凌いで前半0・0で終わればと思っていた矢先の終了間際に、BKのクリアをMF10番に拾われ寄せが甘いのでやばいと思っている最中に25メートル近くのミドルシュートを右スミに決められ0・1で前半を終了しました。

後半も相変わらずパスが繋がらずゲームメーカーのMF10番にボールが集まらない中、10分に相手GKのゴールキックをMF10番がダイレクトで前線に繋ぐとBKの裏に出たFW13番がフリーでシュートをしたが左に逸れて決まらず、何とか1点を返してPK戦に持ち込みたいと思い出した20分に左サイドを突破され追加点を奪われ、そのまま0・2で敗れてしまいました。

1-1

東京大会1回戦は佼成学園中に8・0で圧勝！ MF10番の得点は見事

7月の観戦記（東京都中学校サッカー選手権の都大会でベスト32に進出）で報告したように、今年の中学は長身でキープ力とパスセンスのあるMF10番を中心にボールを回してゲームを組み立てるなかなか楽しいチームなので、私・中村はまた会社を離脱し会場（戸田市の惣右衛門グラウンド―人工芝のいいグラウンド）へ向かいました。そこで、OBチームのメンバーでもあるH17の新

井君（営業中？）に会いました（どうも池谷先生の紹介で大会パシフレットを受注した模様）。

試合経過

25分ハーフの前半開始早々はゲームメーカーのMF10番にボールが集まらず攻撃がうまく組み立てられませんでした。7分ごろMF10番が中盤を抜け出し右サイドのMFに捌きそのままゴール前に詰めたところにセンターリングがきれいに合って先制点を上げると開成の攻めが目立ち始め、その後15分、20分、25分と追加点を上げ4・0で前半を終了しました。特に20分のMF10番の得点は見事で、左サイドからの戻しをペナルティエリアの左角から少し中で受け、トラップして直ぐ放った右足のインフロントでカーブを掛けたシュートがゴール右上に吸い込まれた。

後半1分に追加点を上げると池谷先生は明日からの連戦（ダブルヘッダーが続く）を考慮してメンバー交代を頻繁に行いましたが、その後もサイドからの攻撃が効果的に決まり3点を追加し8・0（4・0、4・0）で圧勝しました。

東京都中学校サッカー選手権のベスト32に

開成中学は、東京都第五支部（足立区・荒川区・台東区・中央区の47校）の予選トーナメント及び決勝リーグを勝ち上がり、「第50回東京都中学校総合体育大会兼第64回東京都中学校サッカー選手権大会」の本大会（東京都ベスト48）に進出、7月23日（土）の1回戦で板橋区立桜川中と対戦し4・2（前半2・1、後半2・1）で勝利しベスト32に進みましたが、翌24日（日）の2回戦では多摩大目黒中に0・6で敗れてしまいました。この試合はOB

チームが都リーグのブロック優勝を争う第一生命サッカー部との大事な試合があったので観に行きませんでした。1回戦で開成の前に試合をやっていた多摩大目黒中のプレーを見て、中盤からボールを繋ぎながらスペースにドンドン走り込んでいく良く鍛えられたチームだな（決定力が備われさらに強くなる）と思っていました。0・6はさすがにやられ過ぎですが、敗戦は順当な結果かもしれません。

追伸

この大会での結果を速報メールで送ったら、S50卒の野本君から「多摩大目黒は中高ともサッカーに力を入れていて、今は元Jリーガーの奥大介が監督をやっているらしい」との情報を得て、サッカー部顧問の池谷先生に確認したところ「高校は奥大介が監督で、中学も元Jリーガーが指導している」とのことでした。

追々伸

この原稿を書くために東京都中学サッカーのHPで多摩大目黒中のその後を追って見たら、何と東京都で暁星中に次ぐ準優勝で全国大会（32校）に出場し、さらにベスト8まで勝ち残っていました。これまたびっくり！



試合経過

1回戦は7月23日(土)に駒沢公園第二球技場で板橋区立桜川中と対戦しました。開成が長身でキープ力のあるMF10番のゲームメーカーにボールを集めて組み立てを行なおうとするのに対して、桜川は突破力のあるツートップ目掛けてロングボールを蹴っていくという対照的なゲーム展開で試合が進みました。お互いにチャンスを決め切れないまま残り5分となったところで試合が動いた6番のMFにグランダーのスループスが出て、トラップするかと寄せていったBKの意表を突いたダイレクトシュートが左サイドネットに突き刺さるナイスシュートで先制。その3分後に桜川が左サイド深く攻め込んで上げたセンターリングがGKの頭上を越えて同点。終了間際、10番からのスループスを受けた右MFの6番が中に切れ込むところを引っ掛けられ得たPKを10番がきちんと決めて2・1で前半が終了しました。

後半当初から桜川が積極的に攻め上がり、3分に開成のCBのクリアミスから縦に抜けられGKが飛び出し弾いたが、こぼれ球を詰められて2・2の同点。その後、一進一退の攻防が続いたが、15分の給水タイムに入る直前に開成がFKからのこぼれ球をプッシュして3・2と再度リード。20分過ぎに10番からのスループスに抜け出したFWの11番がシュートしたボールが右ポストに当たった跳ね返りが左ポストに当たって飛び出したように見えたがゴールが認められて4・2。ここからは開成は無理な攻めをせずボールを回して時間を潰し試合終了に持ち込んだ。



試合前の円陣：高一&二でこんなにいるのに…

スを決め切れないままスコアレスドローでPK戦へ入りました。PK戦の流れは1回戦もPK勝ちをしている葛飾商業に完全に傾いており、開成が先攻で2名ずつ決めた後、開成が3人目4人目と続けて外し、4人すべて決めた(4・2)葛飾商業が勝ち上がりました。私は今年のチームを春の関東大会都予選から見えています、あの1回戦(都立野津田に1・2の惜敗)に比べて全くチームが進歩していない、逆に後退していると思います。秋の新人大会に向けて、非常に不満&不安が残る試合でした。

高校総合体育大会支部予選で 獨協に 2・2でPK負け！

4月24日から高校総合体育大会支部予選(東地区・江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川区・足立区・文京区・豊島区・中央区の58校を9ブロックに分けてトーナメントを行ないブロック優勝の9校が都予選へ)が始まりました。開成は4月29日の2回戦からの出場でしたが、「蹴友」春号で報告したように関東大会都予選に出場し1回戦で惜敗(都立野津田に1・2)したチーム

☆観戦記②高校

全国高校サッカー選手権大会地区予選で 葛飾商業に0・0でPK負け！

今年も猛暑の中、8月14日から全国高校サッカー選手権地区予選(第一地区・江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川区の29校が3ブロックに分けてトーナメントを行ないブロック優勝の3校が都予選へ)が始まりました。開成は8月16日の3回戦からの出場が相手が昨年の1回戦で対戦し6・0で圧勝していた都立葛飾商業でしたので「これは楽勝だろう」と安心して会場(都立葛飾商業)へ向かいました。

ところが、猛暑の中とは言え開成の動きは極端に悪く、ボールは回らず、ビルドアップも出来ず、ただツートップに目掛けて蹴るだけというサッカーになり、逆に葛飾商業の方がボールを回そうという意識を持っていたくらいでした。そんな展開なので、開成のチャンスは流れの中からほとんどなくFKやCKからだけという状況で前半はチャンスもなく0・0終わり、後半開始から2名を交代させ右サイドからの攻めが始めましたが、何回かのチャン



なので期待していたのですが、2・2からのPK負け(2・4)という想定外の結果に終わってしまいました。

私は義父の葬儀(福岡)と重なってしまったためS57卒の川崎君に無理を言って観に行ってもらい観戦記まで書いてもらいました。以下は川崎君の観戦記です。

4月29日に高校総体東京東地区予選2回戦、開成対独協を観てきました。中村先輩からは相手は本郷が勝ちあがってくるのではないかとの話もあり、僕らに因縁有る本郷高校を後輩が粉砕し溜飲を下げるつもりでいたのですが、独協が勝ち上がってきてしまいました。

開始5分に早くも開成のチャンスです。左スローインからLWが縦に突破しシュート。これは上にはずれますが、開成の圧倒的な攻撃が始まります。

13分 右FKからのシュートはGKがパンチングで防ぐ。15分 右CK。18分CFが持ち込み込みGKをかわすも相手DFのスライディングに止められる。20分相手DFのミスからGKと1対1に、右に外す。23分右CKからCF縦に突破しシュート、GKセービング。25分獨協がカウンターからLWシュート(獨協の初シュート)。27分右CK相手のクリアボールをDFがはじき返し、それを拾ったCFがセンターリング、こぼれ弾を左DFがミドルシュートしGOAL。28分CFが右から突破しセンターリング、GKはダイビングパンチで逃げるもLWが拾ってシュート、上に外す。29分左CKからCFがヘディングシュート右上惜しくも外れる。30分獨協縦パス1本のカウンターからシュート、開成GKがセービング。

前半は開成が一方的に攻めながら1点止まりに終わり、いやな展開かと思われましたが、後半10分待望の追加点が入ります。C Fが右から突破し倒れこみながらシュートしG O A L。その後は開成も攻め疲れたのか中盤での潰し合いしばらく続きます。しかし、28分獨協が右クロスからL Wがミドルシュートを決め、2…1（獨協3本目のシュート）。

時間も少なくなり疲れもあつてか積極的なプレーが無くなってきた開成に対し獨協は攻勢に出ます。34分開成D Fの不用意なファールから正面20 mのF K、直接狙われたシュートはG Kが弾くもこぼれ球を決められ、2…2で終了。

2点差を追いついて勢いに乗る獨協がP K戦を4…2で制し、開成の敗退が決まりました。あれだけ優位に試合を進めていて勝ち切れないのかというふがいなさが目に付いた一戦でした。

☆観戦記③O Bチーム

荒川区社会人リーグ（2部）優勝へもう一息！

O Bチームは9月4日（日）荒川区社会人リーグ（2部）の第5戦でスクーデリアと対戦し、相手が9人だったこともあり9…0（前半3…0、後半6…0）で圧勝、通算4勝1分（残り2試合）となった。これと同じく4勝1分の東京渚蹴球倶楽部との対戦（11、12月）がリーグ優勝への天王山となります。

試合経過

9人しかいないスクーデリアは当然のように前線に1人だけ

荒川区社会人リーグ（2部）で宿敵とスコアレスドロー！

O Bチームは7月3日（日）荒川区社会人リーグの第4戦で強豪のコンフィアンサ日暮里（昨年度の区民大会決勝でP K負けした荒川区立諏訪台中O Bが中心のチーム）と対戦しましたが0…0で引き分け区民大会の雪辱はなりませんでした。

試合経過

前半は開成O Bのサイドからの攻撃が機能しチャンスを度々作りましたが決め切れず0…0。

後半はコンフィアンサがフォーメーションを3バック気味にしたことから得た中央突破の決定機を開成O Bが逃し続けると、次第にコンフィアンサの5人の中盤にボールを支配され、残り10分はコンフィアンサに攻め立てられピンチが続きました。このピンチをG K吉田のファインセーブで何とか凌ぎ切り、引き分けに持ち込みました。

東京都社会人リーグは4勝1敗だが、優勝は他力本願！

今年度から東京都社会人リーグに加盟したO Bチーム（第4部7ブロック、8チーム）は第5戦で8月23日（日）荒川区社会人リーグのメイニングランドである扇大橋グラウンドでATLETICO Yと対戦、3…0（前半0…0、後半3…0）で勝利し、通算4勝1敗となりました。

残して守りを固めたため、試合は開成O Bが攻め立てる展開に終始した。開成O Bは両サイドからの攻撃やポストを使ったワンツーなどで攻め立てたがなかなか得点できず、監督の私がイライラし始めた前半10分に左F B柳川がゴール前の混戦から決め先制。15分にはP Kを得たがF W鏡のキックはG KにセーブされO Bチームは何と3回連続でのP K失敗となった。20分にM F中太からのパスを受けたF



後半に向けた円陣

W境野が決めて2…0、25分にはM F中太が引き過ぎているバックラインを見てゴール正面20 mから放った右足のミドルシュートが左隅に決まって3…0で前半を終了。

後半は9人しかいないスクーデリアの走力が明らかに落ち、10分M F三上、12分F W鏡と立て続けに得点し5…0。6点目になる20分の得点が非常にきれいな展開だったのでちよつと詳しく解説します。右サイドのライン際でのF BとM Fとのダイレクトでのパス交換にフォロワー入ったM F中太が右のコーナーのオープンスペースに走り込んだM F草川にこれもダイレクトで繋ぎ、ゴールライン際まで持ち込んだのセンターリングをF W境野がフリーでプッシュして6…0、さらに足が止まった相手に対してM F中太、F W鏡、M F三上が追加点を決めて9…0で終了した。

東京都高校サッカーの大会情報 <http://tokyosoccer-u18.com/taikai.html>

試合経過

開成O Bは前半（35分ハーフ）開始から高い位置のディフェンスでボールを奪いに行き先取点を狙った。しかし、8分に中央左でのワンツーから抜け出たM F秋本の左足シュートはG Kに足で上手く弾かれ、15分の右シュートコーナーからのナイスセーントーリングは飛び込んだM F鏡のヘディングの当たりが悪く外れ、30分にはF W境野がこぼれ球を拾ってから上手く抜け出て左足で放ったシュートはG Kに防がれるなどチャンスを決め切れな

いまま0…0で前半を終了。

炎天下のゲームなので開成O Bは後半開始から2名を交代、5分過ぎには3枚目の交代カードを切り積極的に点を取りにいき20分ごろようやく実を結んだ。F W境野がペナルティーエリア内で粘りB Kと競り合いながら左足で放ったグラウンダーのシュートが右ポストの内側に当たり待望の先取点が入り、これで相手の集団力が切れたのか25分にはM F草川の右30 mからのカーブのかかったF KをG Kがファンブル、F W境野が上手く詰めて追加点。30分にはM F草川から左に開いていたM F鏡にパスが通り、鏡はシュートすると見せかけて中央フリーで待っていたF W境野へパス、境野は難なくプッシュしてハットトリックを達成し結局3…0で勝利。



荒川区社会人リーグの勝敗表 http://www.arakawafa.org/ippan/ippan_1_table.html

9月下旬から始まる荒川区民大会のトーナメント表 <http://www.arakawafa.org/kumintaikai/tournament1-1.pdf>

東京都社会人リーグで大事な試合を落とす！

OBチームは7月24日（日）東京都社会人リーグの第4戦でブロック優勝を争う第一生命サッカー部と対戦しましたが、前半15分&20分と続いた勿体ない2失点から後手に回り、開成OBらしい攻撃が出来ない中、前半のPK失敗などもあり2・4（前半1・2、後半1・2）で敗れた。これで今年度での第3部昇格が難しくなりました。

荒川区選手権大会決勝でまたも敗戦、2年連続準優勝！

OBチームは7月10日（日）雨天順延で延び延びになっていたH22年度荒川区選手権大会の決勝で荒川区役所と対戦したが、0・2（0・1、0・1）で敗れ、残念ながら荒川区での初タイトル（昨年度は区民大会でも決勝PK負け）を逃した。

監督である私・中村はどうしても断れないゴルフ（土日で北海道）が入っていたので安藤君（S60）に無理を言って代理監督として観戦してもらいました。私用で観戦できなかった私、中村ですが、2回戦で5・0、準々決勝でシーラカンス、準決勝で瑞光会と一部の強豪を次々に撃破しての決勝だったので悔しい気持ちで一杯です。以下は安藤君からの届いた観戦記です。

梅雨が明けて猛暑の中、午後3時半からのキックオフ。前半は出足で勝っていた相手チームが開成OBを押し込み、ボール保持は6対4で相手が勝っていた。開成OBは自陣でプレーする時間が多かったが、何とかシュートを打たせずに持ち堪えた。相手の足が止まり始めると徐々に開成のペースになったが、その矢先の

OBチームはメンバー募集中です

OBチームは、昨年度は荒川区社会人リーグ2部で2位に終わりましたが、常にリーグ戦での優勝、そして区民大会と選手権大会の優勝の三冠を目指します。また、今年度から念願だった東京都社会人リーグへの参加も決まり、今後は東京都と荒川区の両方で活動していきますのでメンバーを募集しています。是非、キャプテンであるH17卒の草川君に連絡してください。開成で仲間と楽しんでサッカーを卒業しても続けましょう。

草川君のメールアドレス ped_4_xavi_6@yahoo.co.jp



H23年度OB会フットサル大会

6月5日（日）に春の恒例行事になった開成学園サッカー部OB会フットサル大会を開催しました。

しかし、今年は運悪く荒川区社会人リーグ（試合は5:2で勝利）と重なり、OBチームの大半がフットサルに参加出来ず、フットサルは21名の参加となってしまったのでS51卒からH23卒のすべてのOBが一緒になって年代別対抗のハンディ戦（40歳以上、30歳以上、若手にチームを分けて人数ハンディを付ける）を行ないました。これがなかなか白熱した面白いゲームになり、審判をした私・中村も楽しませてくれました。尚、その後の懇親会にはOBチームのメンバーも合流して30名以上のOBでいつものように盛り上がった次第です。



※OB会費の振込み口座 ゆうちょ銀行 019店 当座 口座番号 0250029 開成学園サッカー部OB会

20分過ぎに自陣右サイドからのセットプレーであっさり失点してしまった。少し集中が切れている感じが有り、ベンチから見てもやられる雰囲気があった。

開成OBはハーフタイムで気合いを入れ直し、後半開始から攻撃を開始した。出足は開成が勝利ボール保持も6対4で勝っていた。MF草川を中心にゴールを何度も脅かし、10分にはPKを獲得するも相手GKにコースを読まれ得点すること出来ない。その後も攻め続けるが、ポストに嫌われることもあり、なかなか点が入らないまま時間が過ぎていった。15分に多少焦りも見え前がかりになったところでミス絡みでのカウンターを食らい痛い追加点を喫してしまった。その後も開成OBは諦めずに攻め続けたが結局最後までゴールを奪えず0・2で惜敗した。暑さと疲れ焦りもあり後半の終盤はややミスが目立ったが、うだるような暑さの中、皆よく走り、勝ちにこだわっていただけに結果が出せずに残念なものとなった。

相手の荒川区役所（現在1部3位）は形式的には2部所属の開成OBよりは格上であるがほぼ互角の戦いであつた。次回に期待する。

その後は、西日暮里のサクラ水産にて14人で2時間ほど反省会（祝勝会の予定で中村さんが予約していたが）を行ないリベンジを誓った。



私の青春とサッカー

昭和33年卒 榮 隆男



国会議事堂へ

国会へは、都電の早稲田車庫からの路線があつた。当時、都内の幹線道路のほとんどに都電の路線が張り巡らされていて、主要な交通手段であつた。駅へ向かう途中、蹴球部のOBで経済部教授の堀江忠男先生にばったり出会った。〃何処に行くのか〃と問われるので、〃国会へのデモに参加したいと思っています〃と答えると、〃蹴球部員にしては珍しいな、いいだろう、私もこれから行くところだ、デモ参加の教職員で都電を二台借り切つてあるから、それに特別に乗せてやろう〃と言われて、同乗させていだいた。

ところで、堀江忠男先生は、ベルリンオリンピックの日本代表チームのフルバックで、ハードタックラーとして知られた方であつた。

ベルリンオリンピックとフォーメーション

日本のサッカーが世界のサッカー界に初めて、その名を刻み込んだのが一九三六年（昭和十一年）のベルリンオリンピックでの初勝利であつた。早大WMWの選手を中心に組まれたチームは優勝候補筆頭との呼び声の高かったスエーデンを3対2で破つたのである。その時のフォーメーションがWMフォーメーションで、チームがドイツへ渡ってから取り入れて勝利を得たので、一躍知られることとなった。

当時も、戦後もそしてまた我々もC・F釜本を擁して3位に輝

いた一九六八年メキシコオリンピックの代表チームも、基本的なシステムは今流に言えば2・3・2・3であった。守備と攻撃が五分五分に分けられていて、各ポジションの役割は明確であり固定的でさえあった。このシステムはWとWが重なったような陣型であり、ベルリン代表チームは守備体系のWをMに置き換えて結果を得た、と言われている。

個々のポジションの名称は、守備が第一列は右フルバック⇨R・B、左はL・B、第二列は、右ハーフバック⇨R・H、センターハーフバック⇨C・H、左はL・H、第三列の攻撃陣は、右インナー⇨R・I、左はL・I。そして第四列は右ウイング⇨R・W、センターフォワード⇨C・F、左ウイング⇨L・Wであった。その後、ヨーロッパからスイーパー、更にリベロなどという役割が伝わり、攻撃のツートップに対して、4・2・4というシステムが考えられ、現在のような多様なシステムと選手の役割りが生まれて今に至っているのである。しかし、その基本は、攻守の役割りの自覚と、その切り替えの判断的確さにあることは変わりなく、更に戦術を支えるのは、高い個人能力にあることは言うまでもない。

国会議事堂正門前へ

さて私は、堀江先生方と別れて、一人、国会を取り巻くデモの列へと入って歩くこととなった。シユプレヒコールを繰り返す大きなデモ隊のうねりの中にあつたが、なぜか、共に歩いている人々との間に違和感を感じていた。そして、気がつくともデモの流れは、議事堂正門へとたどり着いていた。そこでは多くのグループがそれぞれやり方でアピールを繰り返しながらデモ行進をしていたが、中にひととき目を引く若い女性の集団があつた。まるで大漁旗のような大きな色鮮やかな旗を押し立て。正門前でその旗を横

追悼 倉田真君

平成二年卒 水沼 太郎

中一のと看、同じ5組だつた。一緒にサッカー部に入つた。いかにもサッカー小僧という風体のくーたは、一学期の中間試験が終つて、初めて部活に参加したところ、二つ上の小池さんたちや一つ上の高橋さんたちから「黄色いストッキングのヤツ」と呼ばれていた。当初、くーたはハーフより前のポジションを希望していたが、ストッパー（最近では聞かなくなつたポジション名だが、ディフェンスラインの中央の前目で、主に相手のセンターフォワードを抑える。）に落ち着いた。中三のとき、私学大会で3位になつた。くーたとゴリのディフェンスライン中央が始動したのはこのころだつた。コーチの宇田川さんがディフェンダーだつたこともあるのだろうか、ウチの代はディフェンスから立ち上がったといったチームだつた（内藤、やーさん、松田。間違つてたらゴメン）。その中心は、くーただつた。高二のときには新人戦地区予選で優勝し、洪さん、安藤さんの代以来5年ぶりに都大会に出場した。ウチの代は、勝つため、ということよりも、楽しくサッカーをすることを目指したチームだつた。キャプテンの内藤はもちろんだが、くーたも、マネージャーとして練習試合を組むだけでなく、チーム全体を見渡していろいろと調整をしてくれた。もつとも、共学のチームの女子マネージャーと連絡を取る際に、個人的なメリットを享受したこともあつたような話を聞いたことがある。

中・高の6年間でくーたと同じクラスになつたのは中一の時だけだつたが、ウチの代は高三になつても毎日昼休みにグラウンド

倒しにすると、7、8名の者が横並びに竿を持ち、激しいジグザグデモを繰り返し始めたのである。デモ参加者達も取り巻くようにして、その激しい行動をしばし眺めてさえた。その大きな旗の中央には、これも大きな字で「女子美」と描かれていた、当時、学生であつた私が後年この大学の教壇に立つことになるなど、夢にも思いつかない事であつた。女子美がその頃都内の学生運動の拠点校の一つであつたことは、後年に至り知つた次第である。

夏の合宿

前回述べたように、この六〇年安保は、反対側の敗北に終わり、その結果は今もこの国に深い政治問題としてあり続けている。やがて、大学は夏休みに入り故郷へ帰る者も多く練習は休みに入つた。しかしやがて、上級生からその厳しさを指摘されていた夏合宿が待ち受けていた。その年の合宿は長野県の霧ヶ峰高原グラウンドで、合宿所は山小屋風のスキー宿であつた。高原の涼しさを期待して合宿所に集まつたその日から雨であつた。初日も、二日目、三日目も雨、時にズブ濡れになりながら、重い泥の中、ボールを追つた。しかし、ついに五日目には足首がくるぶしまで泥濘に埋まるほどになり、ボール扱いどころか、走ることもままならないグラウンド状態となり、十日間の合宿は五日で中止となつた。翌六日目、皮肉にも天候は回復してきたが、山を下ることとなつた。私は、帰途、高遠に向かつた。丁度、開成蹴球部が合宿中であつたからである。しかし、雨中の五日間の合宿の疲労で身体が重かつたのを覚えている。

秋になると私の生活は再び大学と東伏見のグラウンドと家を三角に結ぶ生活に戻つた。しかし、あの安保闘争を通して、心の中に感ずるものが芽生え、学生生活に変化が生じて来た。

でミニゲームをしていたので、ずっと一緒にいたような気がする。具体的に何が、と個々に挙げるとキリがないが、とにかく楽しい6年間だつた。予備校も一緒、大学も一緒だつた。いつも一緒に馬鹿なことをしていたが、くーたは同い歳なのにどこか大人びていて、私は、他の友人に対する以上の尊敬の念を持っていた。とにかくまつすぐな熱血漢だつた。

くーたから衝撃的なメールをもらったのは、平成20年9月3日のことだ。筋萎縮性側索硬化症（ALS）という難病に罹患しているという告白だつた。医療がらみの仕事をしている私は、それが何を意味するのかがすぐに分かり、そして、正直に言つて、手が震えてメールを打つことができなかった。10月21日、くーたの声かけもあつて、サッカー部同期で集まつた。久しぶりに多くのメンバーが集まつた。何故写真を撮らなかつたのだろう。でも、あのときは、こんな日が来ることを想定はできなかった。

その後、くーたは、ALSで全身の筋肉を蝕まれながらも、Navy Blue Challengerというホームページを立ち上げ、食糧問題に真つ正面から取り組んでいた。色々な思いをブログにも書き込んでいった。

今年2月、佐藤の海外赴任を前に壮行会を



真ん中の、背中の上に1人乗られているのが倉田です。

企画しようと言いついたのもくーだった。自分は参加できないけど、と言つて。今年3月11日の東日本大震災のためにその企画は流れてしまったが、くーたは、いつもそういうことを考えていた。

今年4月12日、Facebookのメッセージで、「Happy Birthday」と送ったら、翌日「たろさん、ありがとー」と返事が来た。これが、くーたとのリアルなやり取りの最後だった。

平成23年4月16日午前5時、くーたの魂はその肉体を離れた。肉体は40歳になったばかりだった。

追伸

倉田くんの立ち上げたホームページもブログも、まだアクセスできます。また、開成同期の友人に依頼し、ALS発症後に倉田くんが取り組んできたことを、コミュニケーションという観点から取り上げてもらった記事がありますので、是非、一度ご覧いただければと思います。

<http://www.navyblue-challenger.com/index-jp.html>
<http://navyblue-weekly.at.webry.info/>
<http://www.nikkei.co.jp/article/column/20110620/27483/>
<http://www.nikkei.co.jp/article/column/20110620/27484/>



第2回OB会ゴルフ 親睦コンペ報告



藤崎会長肝煎りの第2回OB会ゴルフ親睦コンペは、9月29日、秋晴れの好天に恵まれ、名門千葉カントリー川間コースで開催された。昨年は、大雨のため残念ながら中止となってしまったが、今回は参加者の祈りが通じたか、爽やかな絶好のゴルフ日和の中、奥村前会長をはじめ、三名の初参加者（見方、渡辺、笠原の三氏、この内見方氏は、座間からわざわざ前泊しての参加）を加え、13名の参加となった。

親睦コンペということで、例の通り賞品賞金のない、新ペリアルールでの和気藹々の雰囲気の中のプレーではあったが、優勝は、最終のロングホール第3打、残り85Yのアプローチショットが直接ホールインしてイーグルとなった成田氏、準優勝は、予定の海外出張がキャンセルになり参加可能となった飯島氏が前半37のビッグスコアを出して入り、3位には、メンバーでこのコースを知り尽くしている藤崎会長が入った。その他は、ベスグロ（82）の浜田氏を除いて、名譽のため敢えて言及しないことにしたい。

プレー後懇親会では、藤崎会長、布上氏、



参加者（卒年順）：奥村（S31）、布上（S35）、成田（S37）、浜田（S37）、橋本（S37）、飯島（S39）、見方（S39）、米倉（S39）、藤崎（S40）、望月（S43）中村（S47）、渡辺（S50）、笠原（S51）

望月氏からご寄付あった参加賞、及び唯一の賞としてのニアピン賞が授与され、中村副会長からは、最近の中学、高校チーム、及びOBチームの各大会に於ける成績が報告され、OB会として一層の支援のために会費納入を引き続きよろしく願った旨の話があり、初秋の気持ちの良い一日の締めとなった。（橋本泰記）

会費等納入者リスト（平成22年10月1日～平成23年9月30日）

S.20 年二之宮景光	S.47 年中村利尚	S.61 年本橋昌也
S.24 年小山定昭	S.48 年美浦敬一	S.61 年宇田川知己
S.27 年櫻井勇	S.48 年篠原克人	S.62 年飯塚直人
S.28 年坂上満	S.48 年村瀬洋太郎	H.2 年須藤隆之
S.30 年宮崎吉信	S.48 年古莊健一	H.2 年山崎公靖
S.32 年林孝明	S.50 年高津功	H.2 年前田明彦
S.32 年大村實太郎	S.50 年野本聡	H.3 年荻村敦史
S.32 年谷利明	S.51 年伊東達郎	H.3 河西 慎
S.33 年平岩宏司	S.51 年野上順	H.4 年古武弥尚
S.33 年榮隆男	S.51 年笠原秀浩	H.4 年荻野泰弘
S.35 年佐久間周治	S.52 年渡邊聡	H.4 年内田清隆
S.35 年布上征一郎	S.52 年羽深成樹	H.5 年渡辺崇
S.35 年春日井明	S.52 年泉宏比古	H.5 年藤川雅章
S.36 年小林洋二	S.52 年内藤靖之	H.5 年岩花和司
S.37 年橋本泰	S.52 年関口研二	H.6 年正宗忠
S.39 年中野正彦	S.52 年野村晴彦	H.6 年木暮宏史
S.39 年見方次右	S.53 年高橋剛	H.6 年藤波健一郎
S.39 年飯嶋宣雄	S.53 年中川善直	H.7 年子幡哲昭
S.39 年小林利夫	S.53 年田村涼	H.11 年金子敬一
S.40 年星野憲	S.53 年谷口徹	H.11 年田中文憲
S.40 年吉澤壽雄	S.54 年田中直樹	H.11 年谷涉
S.40 年藤崎真人	S.54 年舟崎裕記	H.15 年飯島圭哉
S.40 年手島達也	S.54 年長島誠一	H.17 年鏡義弘
S.42 年平沢甲一	S.55 年武田和徳	H.18 年飯塚晃央
S.42 年塚本克良	55 年浜村佳津史	H.18 年大川雄二
S.42 年山崎誠	S.55 年山田壽一	H.22 年澤田健太
S.42 年石川隆一	S.57 年川崎耕佐	H.23 年唐津皓介
S.43 年望月宗夫	S.57 年保坂伸	H.23 年井上大輔
S.43 年平林隆三	S.57 年橋本拓也	
S.44 年船田隆	S.57 年村上寛	
S.45 年吉田正夫	S.60 年香川克	2011 年 10 月 10 日作成
S.45 年亀山元信	S.60 年東成一	（敬称略）
S.47 年田中義久	S.60 年洪賢司	
S.47 年島影隆雄	S.60 年安藤拓郎	

全学年忘年会のご案内

変わらぬ面影、なつかしいあの頃
 老いも若きも、お誘い合わせ、お来ください。

◇と き：12月15日(木) 18:00～

◇ところ：JR 神田駅東口1分 北京料理『好好(ハオハオ)』

◇参加費：一般 OB 5,000 円

Tel 03-3255-8080

学生 OB 2,000 円

東京



JR 神田駅東口1分 新幹線高架下神田ふれあい通り商店街入り口右2F

■参加申込は、以下まで

幹事：布上征一郎 (S35 卒) 携帯：090-7277-7719 E-mail：s.nunogami@nifty.com

補佐：平山昇 (S43 卒) 携帯：070-5551-0081 E-mail：darumabc@nifty.com

★「好好」社長の高橋 彬さんは開成昭和 35 年卒、山岳部の大先輩です。
 どうぞご最真に。



6月22日のお遊び、藤崎会長の伴奏
 で歌う中村副会長



6月22日、ギターを弾く伊東清志氏
 (S37 卒)

おまけ
 スナッフ



「好好」で飲む、山田隆哉氏 (S35 卒・
 前ダイハツ工業社長)。東京に出て来
 ると「好好」に寄るそうです



5月の連休に宮城に星野憲氏 (S40 卒) を訪問。
 地区の避難所では被災者慰問のライブがあって、私
 (平山) は飲んできただけ、星野さんは元気でした